

主催：三井物産／企画・運営：ネクスファ／協力：朝日新聞社



学校も学年も住む場所も違うみんなは、この日が初対面。最初はちょっと緊張していたけれど、すぐに仲良くなって一緒に課題に取り組みました。

1日目 未来をのぞいてみよう



「世の中の問題には、絶対にこうだという答えがないことも多いんです。だから難しいけど、この5日間は頭をいっぱい使って考えてみよう。先生の説明に、みんな真剣に耳を傾けていました。」

「未来羅針盤」に書かれた未来をつくるさまざまなテーマを線で結んでつながりを見つけていきます。

未来が持続可能であるために、できることって何だろう……。この夏、東京・大手町の三井物産本店で、全5日間(7月23・24・25・31日、8月1日)の「サス学」アカデミーが行われました。その1日目、集まった30人の小学生に先生が話したのは、「人と人、人と技術、技術とアイデアなど、いろいろなものの「つながり」を見つけること。それが「サス学」です」ということ。ある国の問題を解決するために、遠く離れた僕たちにもできることはないか。現在の技術を別のアイデアとつなげることで、新しい解決法が見つからないか。「つながること」でどんな未来が生まれるか、ニュースなどを題材にしてみんなで考えました。



「つながること」でどんな未来が生まれるか、ニュースなどを題材にしてみんなで考えました。



みんなの未来を考える「サス学」って何だろう？

資源やエネルギーはいつかなくなってしまうの？ 安全な水や食べ物？
みんなが大きくなったとき、世の中のしくみは今のままで大丈夫？

持続可能(サステナブル)な未来をつくるための学びを「サス学」と名付け、東京・大手町にある三井物産で未来の仕事と社会についてみんなで一緒に考える「サス学」アカデミーを行いました。

みんなの感想

- つながりが大切、それと、自分なりに考えてみるのが大切だと思う。
- 一見関係無いように思えるものでも、つながっているのだとわかりました。

2日目

仕事と社会のつながり

「サス学」の基本的な考え方を学んだ1日目に続いて、この日のテーマは「仕事」。医療機関が必要な国や地域に病院をつくる仕事、森林や水辺の環境を守る仕事、海外の人たちと一緒に取り組む再生可能エネルギーのプロジェクト……。たくさん話を聞いて気付いたのは、世の中にはいろいろな仕事があるということ。そして、どの仕事もみんなの暮らしや未来とどこかでつながっているということ。大人になったらやってみたい「未来の仕事」のイメージが、だんだん見えてきました。

病院をつくる仕事



三井物産 メディカル・ヘルスケア事業第一部 鈴木麻美子さん
東南アジアのマレーシアやシンガポールで病院づくりに取り組む鈴木さんはビデオで登場。一緒に働く現地の人たちと理解し合うことが大切だと教えてくれました。

みんなの感想

- 私が将来やりたい仕事に関係する人のお話が聞けたので、「夢に一歩近づいたなあ」と思いました。
- 世界で仕事をするのは、言葉や宗教がちがうので大変だと思いました。でも、できあがった時の喜びがあると聞いていたので、私も体験してみたいです。

太陽熱発電の仕事



三井物産 環境・新エネルギー事業部 五味智治さん
注目の再生可能エネルギー、太陽熱発電。五味さんが取り組むプロジェクトでは、1日に4万～8万人が使う電気をつくれると聞いてみんなびっくり。

太陽の熱でどうして電気をつくることができるのか、みんなで考えました。

木を活かし、森を守る仕事



三井物産 環境・社会貢献部 巾高志さん
木を切って使い、また植えるサイクルを繰り返すことで森を守れると教えてくれた巾さん。林業の作業現場の服装で登場し、教室を盛り上げてくれました。

水辺の環境を守る仕事



認定NPO法人アサザ基金 代表理事 飯島博さん
三井物産も活動に協力している「アサザ基金」は、霞ヶ浦(茨城県)で環境を守る仕事をしています。代表の飯島さんは、「仕事をするとするのは、ありがたいつながりを広げていくこと」と語りました。

木くずでつくった「木質ペレット」はバイオマスボイラーやストーブの燃料に使います。

主催：三井物産／企画・運営：ネクスファ／協力：朝日新聞社



この日は「TABLE FOR TWO」の紹介もありました。健康的な食事をとることで、途上国の子どもに学校給食をプレゼントできる仕組みです。三井物産の社員食堂でも協力しています。

3日目 未来の仕事をつくろう



一人でどんな書き進めでも、仲間と相談しながら考えてもいい。発表の用紙はどう書くのも自由。「サス学」アカデミーには、決まったやり方や正解はありません。

ぼくの未来の仕事は
介護用ロボットのクリエイター。
こだわりポイントは
ロボットのデザインです。



「サス学」アカデミー3日目のテーマは、一人ひとりの「未来の仕事」づくり。30年後に自分がやりたい仕事の内容や、その仕事はどう世の中の役に立つかを考えました。「みんながこれからつくる仕事は、昔からあるものを工夫して新しくするのもいい。今はどこにもないものをポンと生み出すのもいい。いろいろな可能性を自由に考えてください」。先生の説明の後、「仕事の名前」「仕事の中身」「この仕事のウリ」などを思い思いに紙に書き込んでいきます。決して簡単な作業ではないものの、何色ものペンを使い分けたり、わかりやすいイラストを入れたり、みんな楽しそうに個人発表の準備を進めていきました。



「サス学」を学んだら未来が少し見えてきた

資源やエネルギーはいつかなくなってしまうの？ 安全な水や食べ物はあるの？
みんなが大きくなったとき、世の中のしくみは今のままで大丈夫？
持続可能(サステナブル)な未来をつくるための学びを「サス学」と名付け、東京・大手町にある三井物産で未来の仕事と社会についてみんなで一緒に考える「サス学」アカデミーを行いました。

4日目

未来の仕事(個人発表)

4日目は、一人ひとりが考えた仕事について、みんなの前で発表する日です。地球環境を守る仕事、子どもやお年寄りが安心して暮らせる社会をつくる仕事……。仲間の発表に感心したり、ときには厳しいツッコミを入れたり、聞いているみんなも楽しそう。全員の発表が終わり、先生の一人は「まだまとまっていないアイデアもあるけど、発想や目のつけどころ、ネーミングなど、どこかにすごいところがある。全部面白かったです」と語りました。その後は班に分かれて明日のグループ発表の準備です。みんなの仕事をつなげてひとつの「会社」をつくり、世の中の問題を解決すること。これまでで一番難しい、だけど一番ワクワクする課題に、みんな張り切って取り組みました。

話の順番を考えたり、家族の前で練習したり、わかりやすく伝えるためにみんなしっかり準備してきました。



わたしの仕事
背中につける羽

世界中から集めた古着などで羽をつくり、太陽光をエネルギーにしてみんなが飛べるようにします。ゴミや有害なガスを出さずに使える移動手段です。病気やケガの人も楽に行きたいところに行けます。

ぼくの仕事
エコノカプセル

カプセル状の透明なソーラーパネルでまち全体をおおい、そのなかで環境のバランスがとれるようにします。車はぜんぶ燃料電池車にし、国産の木などを使って人にやさしい家づくり・まちづくりを進めます。

ぼくの仕事
二酸化炭素淡水化士

特別な「二酸化炭素淡水化装置」を使って空気中の二酸化炭素からきれいな水をつくり、各家庭に送ります。地球温暖化と水不足の問題を同時に解決し、食糧不足の解消にも役立ちます。

ぼくの仕事
地球環境生物学者

動物や植物の調査をして、未来の環境のためにできることを考えます。この仕事の「ウリ」は、子どもたちと関わって一緒に考える楽しいプロジェクトということです。

わたしの仕事
ミュージックボランティア基金

コンサートや音楽レッスン、楽器のはん売などで集めたお金を、環境問題や医療、教育などに役立てます。時代が進むにつれて、世界ではいろんな問題が起こると思うので、この活動で救うことができます。



本や資料をたくさん見せてもらいました。デスクの上には家族の写真も飾られていましたよ。

個人発表の後、三井物産 環境・社会貢献部のオフィスを見学することに。みんなの質問に社員のみなさんがいていねいに答えてくれます。

みんなの感想

- 初めてこんなテーマでプレゼンをしたので楽しかった。いろいろな仕事があったので、未来はどうなっていくのか、楽しみにになりました。
- 自分の伝えたいところを強くアピールして、相手に伝えることができた。

主催：三井物産／企画・運営：ネクスファ／協力：朝日新聞社

5日目

未来の仕事(グループ発表)

「サス学」アカデミーもいよいよ最終日。みんなの「未来の仕事」をつなげて5人でひとつの「会社」をつくり、グループごとに課題の解決法を考えました。方向性がまったく違うそれぞれの仕事で、どう協力し合うのか、話し合いが続きます。そして他のグループの仲間たち、その保護者の方々や三井物産の社員のみなさんなど、100人近くが見守るなかで最後の発表が始まりました。

1班 課題「高齢者にやさしいまちづくり」



みんなが見守るなか、一番緊張するトップバッターを務めた1班。日本の伝統文化を伝えるテーマパーク「伝統ミライズ」、昔の思い出を絵にする「パソコンレーター」、みんながよろこぶ家をつくる「ハッピーけんちく家」など、得意分野を生かして高齢者の暮らしを支えます。



2班 課題「高齢者にやさしいまちづくり」



僕たち・私たちの未来は「サス学」から始まる

「持続可能(サステナブル)な未来をつくるための学び=サス学」をテーマに、この夏、東京・大手町にある三井物産で行われた「サス学」アカデミー。30人の小学生たちは、5日間の学びを通して、未来につながるどんな夢や目標を見つけたのでしょうか。

3班 課題「里山・川・森を守る」



「二酸化炭素淡水化士」や「森と宇宙パーク」の仕事は「機械改造手」のハイテク技術で支えられています。自然を守るボランティアやロボットの派遣には、人もロボットも両方治す「オールドクター」と途上国の支援もする「協力α病院」が協力します。

4班 課題「里山・川・森を守る」



地面を掘って進む「ドリルロケット」で、世界中をまわる環境ツアーを企画しました。ロケットの開発や操縦には「研究支援組合」やロボットの専門家が協力し、「伝統環境保護会社」がツアーのための情報を集めます。



5班 課題「途上国に水や食糧を援助」



「ミュージックボランティア基金」が音楽イベントを開催したり、企業に呼びかけたりして集めたものを「難民スカイメール」を使って途上国に届けます。また、専門家が開発した「2年間水がなくても育つイネ」をプレゼントし、地域ごとのこまかな天気の情報も教えて相手国の農業を応援します。

6班 課題「途上国に水や食糧を援助」



「ブックソムリエ」は世界の国の様子を調べ、環境の専門家が考えて食べものを増やし、未来の世界で人気の宇宙船競争「スペースレース」用のマシンが途上国に運びます。「ベストティーチャー」は協力や思いやりの大切さをみんなに教えて、世界とつながっています。

一緒に悩んだり笑ったりした仲間たち、お世話になった先生や三井物産のみなさんと。大切な思い出の一枚です。

みんなの感想

- 話し合いで反対の意見がでてでも納得するまで話し合い、ベストな案ができたのでよかった。
- 未来はそうぞうすればするほど面白くなる。
- 自分一人では考えられないようなこと、知らない言葉や知らない物の名前をサス学で知ることができました。



三井物産株式会社 副社長 木下雅之

夢と希望を忘れずに

会社にとって、お客様の満足のために仕事をするのはとても大切ですが、それと同時に「こんな良い社会をつかっていきたい」という夢や希望も決して忘れてはいけません。みなさんの発表を聞き、あらためてそのことを強く感じました。「サス学」はこれからの社会でますます重要になる考え方ですので、みなさんが今回学んだことは、将来きっと役立つはず。短い時間でしたが、ここで出会った仲間とのきずなを今後も大切に思い出してもらえたらうれしく思います。(談)



「サス学」アカデミー 杉浦正吾 先生

本気の取り組みに感謝

この「サス学」アカデミーは、課題を解決する力を磨くため、子どもたちの自由な発想を生かし、あらかじめゴールを決めずに進めてきました。正直に言えば、いくつかギブアップするグループもあるかもしれないと思っていましたが、全員が見事な発表を聞かせてくれました。「うちの子は「サス学」を学び始めてから新聞やニュースを前より熱心に見るようになった」といった話を、保護者の方からたくさん聞きました。みんなが本気で考え、多くのものを吸収してくれたことに感謝しています。(談)